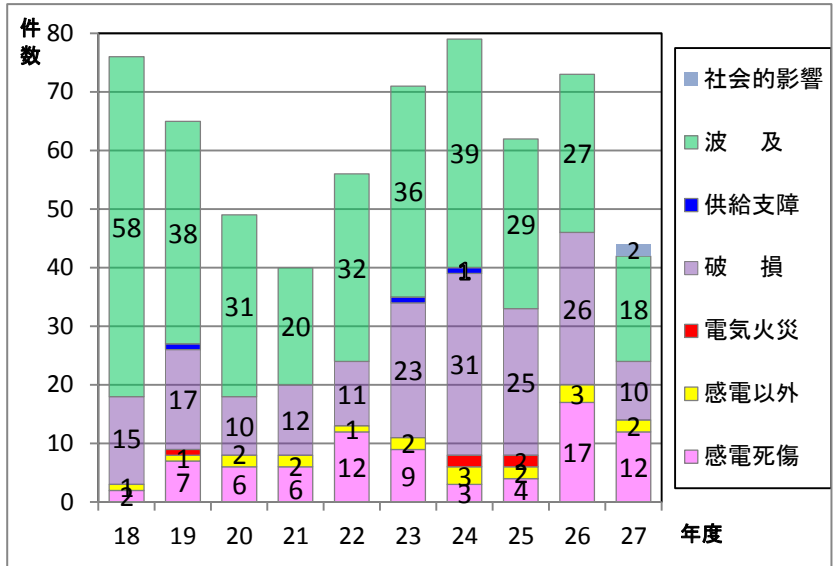


平成27年度九州管内における電気事故について【概要版】

【電気事故全体での分析】

- 平成27年度、九州管内の電気事故は44件発生（前年度比－29件）
- 感電死傷事故12件発生
うち死亡事故が3件
- 破損事故10件発生
風力発電所の事故が減少
※ 風力発電所事故件数の推移
〔 H24FY: 15件 H25FY: 14件
H26FY: 14件 H27FY: 2件 〕

グラフ1. 管内の電気事故件数の推移 ※水力の「異常放流」除く。



【種類別での分析】

1. 感電死傷事故

- 12件(12名)発生
- 感電死亡事故3件 (H24～26FY 0件)
- 公衆による感電負傷事故 (6件発生)
- 7～8月に3件づつ発生 ※夏場に多い傾向

グラフ2. 管内感電死傷事故月別発生件数 (過去10年の累計)

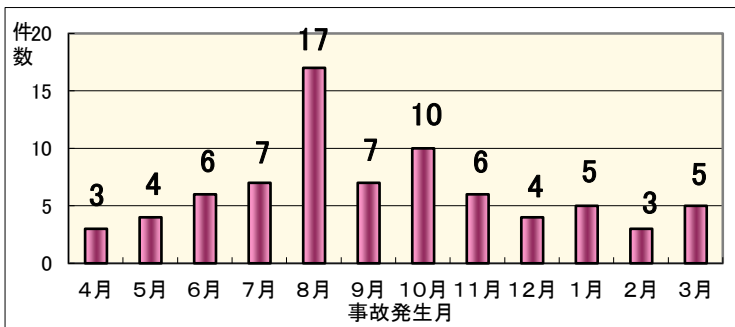


表1. 平成27年度管内電気事故の種類別件数

種類	区分	電気事業用電気工作物	自家用電気工作物	計
感電死傷		5 (2)	7 (15)	12 (17)
感電以外死傷		1 (1)	1 (2)	2 (3)
電気火災		0 (0)	0 (0)	0 (0)
破 損		2 (3)	8 (23)	10 (26)
供給支障		0 (0)	—	0 (0)
波 及		—	18 (27)	18 (27)
社会的影響		1 (0)	1 (0)	2 (0)
計		9 (6)	35 (67)	44 (73)

(注) () 内は前年度の件数

●原因別分析

<公衆> 「電気工作物不良」

請負会社の同僚2名と溶接作業に従事していた被災者が、作業現場でうずくまって倒れているのを同僚が発見。作業中何らかの原因で溶接ホルダー又は溶接棒が体に接触し感電死亡。

<電気作業員> 「作業方法不良」

年次点検において、被災者が高圧受電盤裏側のアクリルパネルを外す際、左手差し指が高圧ケーブル端子充電部に接触し、感電負傷。

<公衆> 「被害者の過失」

66 kV 送電線下での除草作業において、ユニック車により除草後の草の積み込み中、誤ってユニックブームを送電線に接触させ、地上で操作していたオペレータが感電負傷。

<電気作業員> 「作業準備不良」

冷凍機の更新作業を行っていた請負業者が、当該冷凍機コンプレッサの電気配線工事を実施していたところ、充電しているケーブル(210V)を誤って切断し、感電死亡。

2. 感電以外の死傷事故

- 2件(2名)発生(前年度比－1件(－1名)) ※過去10年を見ると毎年1～3件発生し横ばい傾向
- 原因別分析

<公衆> 「保守不完全」

自転車で買い物に行く途中、腐食により断線し道路に垂れた共同支線に引っかかり転倒、顔面を強く強打し負傷入院。

<電気作業員> 「作業員の過失」

ホイストクレーンの電圧電流測定作業で、ブレーカー一次側の銅バーで測定しようとアクリルカバーの隙間からクランプメーターを差し込んだ際、誤って短絡させ、アークが発生し火傷。

3. 電気火災事故

なし

4. 主要電気工作物の破損事故

- 10件発生（前年度比－16件）
- 発電設備以外0件

- 発電設備の破損事故は10件（前年度比－15件）

自家用電気工作物 8件（前年度比－14件）
 電気事業用電気工作物 2件（前年度比－1件）

風力発電所、火力発電所の事故が減少

- 原因別分析では保守不完全が多い

火力発電所	4件	（前年度 9件）
太陽電池発電所	4件	（前年度 2件）
風力発電所	2件	（前年度 14件）
需要設備	0件	（前年度 1件）

「保守不完全」	5件	（前年度 9件）
「製作不完全」	2件	（前年度 4件）
「自然現象(雷)」	0件	（前年度 4件）
「施工不完全」	0件	（前年度 1件）
「調査中・不明」	3件	（前年度 7件）

5. ダムの洪水吐きからの異常放流

なし

6. 供給支障事故

なし

7. 波及事故

- 18件発生（前年度比－9件）
- 夏場を中心に発生
 - ※7月に4件、8月に2件発生
 - ※27年度は雷によるものが減少（前年度比－13件）
 - ※過去10年の傾向も夏場が多い傾向
- 「保守不完全」が全体の約44%（8件発生）と前年度に比べ2件増加。次に「雷」が全体の約17%（3件発生）
- 区分開閉器での事故が約50%（9件発生）、次に高圧引込みケーブルの事故で約22%（4件発生）

グラフ3. 管内波及事故の月別発生件数（過去10年の累計）

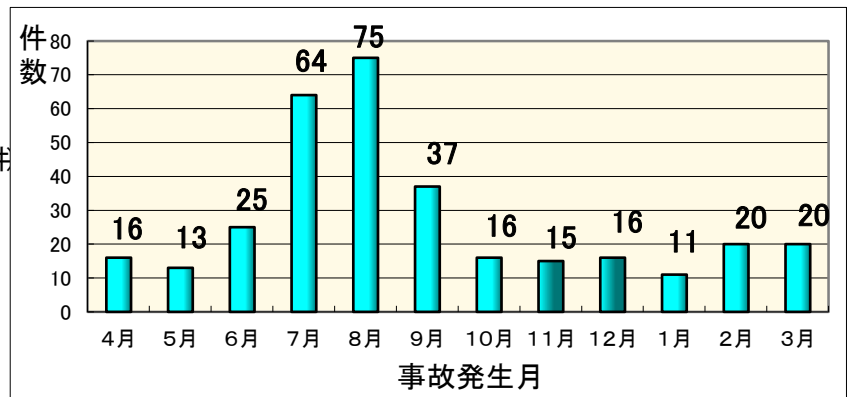
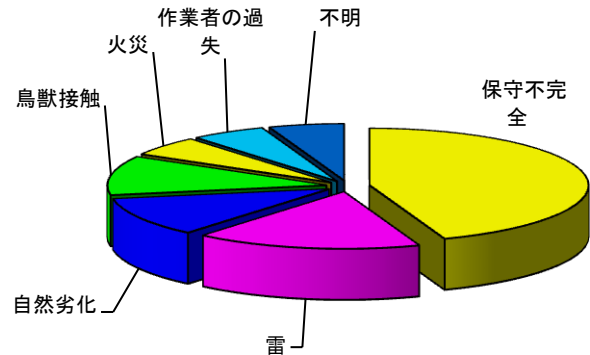


表2平成27年度管内波及事故の電気工作物別発生状況

発生状況	電気工作物	件数	前年度の件数
1	区分開閉器	9（50.0%）	17（63.0%）
2	高圧引込ケーブル	4（22.2%）	2（7.4%）
3	遮断器	2（11.1%）	0（%）
3	避雷器・リード線	2（11.1%）	2（7.4%）
5	継電器	1（5.6%）	0（%）
	高圧母線	0（%）	1（3.7%）
	送電線	0（%）	1（3.7%）
	高圧受電設備一式	0（%）	4（14.8%）
	合計	18（100%）	27（100%）

グラフ4. 平成27年度管内波及事故の原因別発生状況



8. 社会的影響による事故

- 2件発生
- 地中用開閉器塔1件（隣接建物に被害）、太陽電池発電所1件（近隣民家に被害）